
ゴーレム使い（仮）

五大湖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴーレム使い（仮）

【Zコード】

N4207L

【作者名】

五大湖

【あらすじ】

ゼロ魔の世界に転生したあるオリジナル主人公の話。原作知識は少しだけしか知らず、主要人物と関わらない事を喜んでいたら巻き込まれる不運オリジナル主人公。

1 (前書き)

ゼロ魔の一次です。つい思について初の作品。

やあ～みなさん初めまして！私は前世の記憶を持つている転生者です。

つて言つたら白い目で見られるだろうね、事実なんだけどさ。まあ信じる信じないはあなた方に任せるよ、曖昧な記憶しかないし前の名前なんか覚えてないから。そのほうが良かつたかもしれないな、いま考えれば。

生まれた時は長期間混乱してたから両親をかなり困らせたみたい、でも家族には元気な赤ん坊だと思われたみたいだからよしとするか。生まれたばかりの頃はいろいろあつたけど後は順調に育つて今に至るつてわけ。この辺で自己紹介しないとね、

私は『ミハエル・フォン・グラーヴ』

ゲルマニアのグラーヴ男爵家三男で現在17才、トリスティン王立魔法学院留学生。ゼロの使い魔に転生してしまった哀れな？転生者です。それもルイズ達と同級生になる予定。元々ウインドボナの学校のはずつたのに、知らない所でトリスティンに行くのが決まり元々留学すはずだったある貴族がある事情で行けなくなり急遽私が留学する事に決まつたわけ、しばらく経つてから何故私が選ばれたのか気になつて調べればなんてことはないその貴族は次男で長男が軍務中に重傷の傷を負い留学を取り止めになり跡取り候補として教育するらしいね、そのてん私は三男だから気楽に自分の人生を歩めるから。何故私に留学することになつたかと言うと、ある貴族（貴族までは調べられたがどこの誰かまでは分からなかつた）が『替わりに誰かを留学せしろ』などと言い出した事が発端で、権力もなく人脈も乏しく年頃のグラーヴ男爵家の私に決まつたわけ。

その頃の私はゴーレムを研究しつつ表向きには気ままに旅行（ゴーレムを研究するために人里離れたどこで実験もしてたから、せつかの異世界に転生出来たから見て回りたかった。他国には身分を偽

つて。おかげでかなり広い人脈ができた）して、いて社交界で話題になつてたらしい、ちなみに社交界は数えるほどしか行かなかつた。その甲斐あつてついに思い描いたゴーレムが完成した、それも『ガンダム型』の。男のロマンだね巨大ロボット（実際はゴーレムだが）は、流石に実寸大は無理だつたが約半分程度の高さに仕上がつた。曖昧な記憶しかなかつたが、自分の名前は覚えてないがなぜか前世の雑学だけはかなり思い出していたから鍊金が使いやすく装甲などハルゲニアでは今の所出来ない金属が精製することに成功した。難関だつたのがコックピット周り、やはり中に入り運転出来なければ意味がないからかなり手こずつた。それに空も飛べる、長時間は無理だけね。そんなこんなして、いる時期に留学の話が舞い込んで誘拐同然の事をされ魔法学院に入学するはめになつてしまつたわけ、入学するのに抵抗したが押し切られあげく脅迫まがいまでされ、原作を少ししか知らないから関わりたくなかつたが諦めるしかなかつた。

原作だと来年の春の使い魔召喚から数ヶ月で戦争が起ころるはず、それまで一年と少し原作メンバーと関わらない事を目標にもし関わつてしまつた時には生き残りの策を考えねば。

今現在の私の戦力は、土のスクウウア、風のトライアングル、水のライン、火のドットそしてガンダムゴーレム、表向きには土のラインだが。ガンダムゴーレムの武器はまだ造つてないし、あつても対人には使えない。戦闘力がありすぎて虐殺になつてしまつし装甲なんてこの前実験したら傷一つつかないし、強いて言えば高温の火と衝撃による中に乗つている搭乗者が保たない。コックピット周りの水の魔法の課題だな、後は武器か・・・ガンダムハンマーでもいいか？高速で回せば盾にもなるし鈍器にもいいし！

対人用のゴーレムを造るか簡単ながら侮れない十体の、コントロールもしやすいし戦術もしやすい盾持ち剣持ち槍持ち重量級軽量級などバリエーションに富むから。

そんな事を考へてるのが馬車での護送中？輸送中？の私ことミハ

エル・フォン・グラーヴ、そろそろ学院に着く頃かな聞いてみるか。

「いまだの辺だ？」

「はつ 間もなく学院が見えてくはずです」

「そうか。ありがとづ」

教えてもらつたからお礼を言つたら恐縮されてしまった、まあい。それよりもこれから的事を聞かなければ、目の前にいる陰険な監視人に。

「聞きたい事がある、よろしいか？ヨーグ殿」

ヨーグとしか名のらなかつたのでそれ以上は知らない、会話を楽しむタイプに見えないし田つき鋭くおそらくメイジだらうかなりの腕の。

「どんな事でしょ？」

言葉は優しいんだけどね。

「ハツキリ言わせてもらえれば、学費・生活費・衣類などについてます」ぶつちやけ金がない、誘拐同然で連れてこられたから準備などしていないし着てる物などマントを脱げば平民に間違われてしまうおそれもある。

「その心配はありません、学院に着きましたら渡すように申しつかつております。その後はひと月に一度送金されるよつな手はずになつております。それと、身の回りの物は馬車の荷台に載つているトランクに入つております後でご確認下さい」

「そうですか。分かりました」

「いえ、こちちら急な事で」不快に思われておるとこひる申し訳ないです

よく言つ、脅迫まがいまでしたくせに。

「よつ」ヨーネースティイン王立魔法学院に「外から衛兵らしき男性の声が聞こえ馬車が静かに停車するのが分かつた。

やつと着いたのか、やれやれだ！

着いてしまつたのだから仕方がない、これから的事を思えばため息をついてしまうがせつかくの留学だ楽しむとしようか。そう思いな

がら立ち上がり、外にでるドアに手をかけるのであった。

1 (後書き)

これだけ書くのに時間がかなりかかった、それにしても疲れ果てた。
こんな作品を読んでくれてありがとうございます。次を書くかは未定。

2 (前書き)

会話がない話しになってしまった。ミハエルにとって今日は不運の日だ。

トリステイン王立魔法学院の男子寮の部屋に着いたやることないからとりあえず渡されたトランクの中身でも確認してたら、せめてものお詫びなのかなんのか分からぬがワインが一本だけ入っていた、無難な物が入つてが。ワインを飲みながらこれから事を考えねば。

入学式は明後日だから余裕はあるな、学院の見学は明日でいいかな到着したのが夕方だつたから。

家族はどう思つてるんだろうな？心配してたかな？

ん～それはないか私のことは放任主義だし領内経営は順調だから、手紙を後で送れば大丈夫だる。元はご先祖様が爵位を買いつ取つたらしいから商人気質もあるし平民だからといって虧げてるのは聞いたことがないし。

兄上達も貴族の威厳を保ちつつ平民達と接してたから大丈夫だな。一番上の兄は父上の補佐で領内経営をしてるし一番目はウインドボナで軍務中だし、時々思うが私と兄上達、あまり似てないな？小さい頃は似ていたが年が離れているせいか？

メイジとしもそうだ、父上は風のトライアングル、母上と長男は水のライン、次男は風のスクウウア。土は私だけのスクウウア、転生補正があるのは分からぬが。

容姿にしても私だけ薄い金髪の薄緑の目の少しタレ目、金髪は合つているがみな明るくややソリ目の青色。

自分で考えていてへ口む、それでも私は自信を持つて家族だと言える。関係も良好だしたとえ・・・いやよそういうずれ知る時があるはずだ。

気分転換に散歩でも・・・窓から外を見ればもう薄暗くなりかけてる。後は食事だな、あつ食事で思い出した早めに厨房に行かなければ。前に一度、トリステイン貴族の料理食べた事あるがあれは私には毎

日食べれない。もう遅いから明日からの事でいいが、あまり無理強いはしたくはなが何かしら持つて行くか。

なぜか暗くなってしまった、窓を開けて空氣と氣分も変えても食堂に行くか。椅子から立ち上がり窓を開け食堂に歩み出した。

2 (後書き)

読むと書くのはやはり難しい。読んでくれてありがとう! 感謝

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4207/>

ゴーレム使い（仮）

2010年11月12日11時41分発行